

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

| | |
|------|------------|
| 校名 | 大阪府立八尾支援学校 |
| 校長名 | 古川 綾子 |
| 准校長名 | 坂田 享介 |

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 令和8年2月16日(月) 10:00~11:30 |
| 開催場所 | 本校 図書室 |
| 出席者数 | (委員)4名 (学校)11名 (傍聴者)0名 |
| 資料 | 第3回次第、名簿、3学期授業アンケートの結果について、スヌーズレンルーム資料、令和7年度学校経営計画及び学校評価、令和8年度学校経営計画及び学校評価 |

議題等(次第順)

- 校長あいさつ
- 報告1 令和7年度学校経営計画の評価 (質疑応答)
- 検討 令和8年度学校経営計画(案) (質疑応答)
- 報告2 3学期 授業アンケート
- 報告3 スヌーズレンルームについて
- 委員からの提言等
- 准校長あいさつ

校長あいさつ

- ・3学期は作品展及び、授業参観(授業アンケート)を実施した。また公開授業について年間2回実施できた。そういった取り組みを通じて、ICTの活用を含む教員の積極的な姿勢を感じることができた。
- ・来年度は児童生徒数がさらに増加する見込みであり、通学バスの座席数の問題やHR教室の確保など、課題は多い。その中で、卒業式の時期が近づき、卒業生を送る会など、年度末の取り組みを実施している。
- ・教育環境の改善のために、南東門側のアスファルト化、校舎の南側の整備が進んでいる。プールについても今後補修を行う予定である。

報告1【令和7年度学校経営計画の評価】:校長より

- ・安全安心な学校作りとして、施設設備の項目は6%上昇し84%(目標値75%)となったが、今後も修繕を進める。
- ・時間外労働について全体として減らすことができている。(80時間越える教員は0人)教員同士の協力体制の構築が進んでいると考えている。
- ・教員間の授業見学週間の設定により、専門性や指導力の向上を図っている。事後の研究協議の実施や地域の教員の参加もあり、相互の学びの機会として効果を生んでいる。
- ・地域連携として、各市町村の学校等への訪問相談を実施している。本年度は、支援教育部員以外の教員の同行を20回実施できた。これにより、具体的な支援指導や保護者対応など、同行教員の直接的なスキルアップが見込める。

報告1【令和7年度学校経営計画の評価】:准校長より

- ・支援教育における指導力の向上に向けて、シラバス、学習班の見直しを実施。3学年をたて割にしたグルーピングで学習体制実施をスタートさせた。保護者の肯定的意見は92%と向上した。一方、学習の記録による『評価は学習状況を適切に評価できているか』という項目で教員82%と、記述の仕方が難しいという教員の認識がある。様式の見直しを含め改善に向けて検討をしたい。

- ・人材育成の観点からは、『意見が学校運営に反映されているか』という項目の数値が低い一方、同僚性については、高い数値を保っている。話しやすい環境ではあるが、会議等での意見の言いやすさに課題があると推測できる。
- ・進路指導実践力の強化の観点からは、教員対象の企業、事業所見学会について、日々の業務があり、参加が難しい状況もあった。十分に参加できるようなスケジュール設定を行っていききたい。
- ・支援学校としてのセンター的機能については、各種相談等の件数からも、地域の学校が本校を頼っていただけていると実感している。
- ・八尾市の高等学校の合同文化祭について、ダンスパフォーマンスを披露するなど、新たな取り組みを実施できた。

(質疑応答)

- ① 保健室を中心に対応、ケガや病気について、保健室に常駐の看護師は何名か。
→常勤の配置は無いが、非常勤の看護師を1名配置している。(週29時間)
- ② 食育に力を入られていること、アレルギー事故等がないこと、すばらしい。
→複数のチェック体制で、間違いなく行っている。
- ③ 卒業する生徒について、進路未決定者の状況を知りたい。(卒業後のバックアップ体制を含め)
→卒業生17名、うち1名は進路未決定だが4月以降に予定がある状況。3年間はアフターフォローの期間としており、20歳を祝う集いなどの機会でも、でき得る対応を行っている。
- ④ 先生方の取り組みが保護者に伝わりきらない状況について、保護者対応に関する研修などが行われているか(特に新任の先生など)
→保護者対応に特化した研修ではないが、支援教育部の『ほっと相談室』という機会が定期的にある。また、メンター、メンティ制による相談体制も確保している。また、部主事、首席、管理職へ迅速に報告や相談をするように校内で周知している。
- ⑤ 実際の現場で良くなったと思う具体的な状況があるか。
→定時退庁等に対する現場の先生方の捉え方に変化が感じられる。以前は、早めの退勤を促すようなアナウンスに対して、仕事量を減らしてもらわなければ不可能である、という感覚の受け止めが一定あると感じていたが、働き方改革の浸透とともに、定時退庁を可能にするには、どのような業務の進め方が必要か、という考え方にシフトしているような実感がある。

検討【令和8年度学校経営計画(案)】

- ・校時の見直しに合わせ、短縮授業日の設定を増やすことで、家庭訪問等の時間的余裕を生み出す。
- ・図書室については、本来の図書室としての活用ができていない状況がある。特別教室の確保については、今後も状況の改善は困難と考えられるため、ブックトラックを活用している。次年度ブックトラックの増台を行う。
- ・高等部の授業の在り方として、マンパワーに頼らず、システムとして無理のない運用をめざす。
- ・校務支援システム『賢者』の導入により、学習の記録の様式等の問題の改善に取り組む。
- ・生成AIについて、課題をクリアしながら、有効な活用方法について考えていきたい。
- ・黒板のホワイトボード化を含め、環境改善を進めたい。
- ・会議等、意見の言いやすい環境を整える。
- ・行方不明の搜索態勢について、職員全員がスムーズに対応できるような理解と実践が必要。
- ・学部間及び学校間交流等の取り組みを継続していく。

報告2【3 学期授業アンケート】(教頭より)

(小学部)

- ・マチコミメールの発信回数を増やし、回答方法について対策を講じた。
- ・日曜日の開催であったこともあり、参加率が上がった。概ね好意的なご意見が多かった。
- ・子どもの動きを待つ、頑張りをほめる、という指導について、特に肯定的なご意見を頂いた。
- ・『思わない』0名、『あまり思わない』1名と否定的な回答が極めて少なかった。
- ・4年生実施の『2 分の1 成人式』では、喜んでいただき、毎年実施してほしいという意見もあった。
- ・5年生の結果では、4つの項目において『そう思う』の回答率が100%であった。
- ・5, 6年生の参加率が下がってくることは課題ではある。今後参加を促すような対策を検討したい。

(中学部)

- ・家では見られない頑張りが見られた、などの肯定的なご意見がある一方、少数ではあるが、『思わない』『あまり思わない』の項目についてもご意見をいただいている。
- ・授業内容と個別の指導計画の内容にズレが生じるような状況は改善したい。
- ・米国では、日本の個別の指導計画にあたる、IEPが保護者との契約に近い効力を持つ。そういった状況について教員と共有する機会を設けたい。

(高等部)

- ・授業の楽しさを感じてもらえた旨の意見が多くあった。
- ・たて割り班について、安心感があるといったご意見があった。
- ・説明のわかりやすさ、作業指示、授業のねらいや意図をより伝わりやすくする必要がある。
- ・当日の授業担当者によるアナウンスの強度の違いにより、授業ごとに回答率の差が生まれる状況があった。

報告3【スヌーズレンルームについて】(教頭より)

- ・多目的室に約6畳のスヌーズレンルームを設置した。プラネタリウムライト、スピーカー、ヒーリング効果のあるBGM、バブルタワーなどの感覚機材を配置し、心身の緊張を解すこと、クールダウンの効果を得るなどの心地良さを体感することができる。また、好ましい刺激を他者と共有することについてもプラスの効果があると考えられる。「またピカピカの部屋に行きたい」といった児童の感想があった。

委員からの意見・感想

- ・先生方の頑張りや、こどもはもちろん、親御さんにも伝わるといいなと思います。
- ・しっかりと計画を立てながら、全員で取り組んでおられると感じた。
- ・時代の進化に対応した、取り組みをしておられ、素晴らしい。今後ご健闘を祈ります。

准校長あいさつ

- ・卒業を控えた時期は、新しい門出に向けた大きな節目である。残りの時間を充実した時間にできるように、取り組んでいく。
- ・学校の老朽化について、改修が必要な箇所は多いが計画的に実施していきたい。
- ・本年度の学校運営協議会は本日で最後となる。ご意見いただき、感謝する。

閉会